

| <b>奈良市食育推進会議</b>  |   |                |
|---|---|----------------|
| 開催日時  | 平成25年10月18日（金）午後2時から午後4時まで  |                |
| 開催場所  | はぐくみセンター 9階 9-1会議室  |                |
| 議 題   | 1 食育推進会議の会長、副会長の選任について<br>2 食育推進計画（現行）の推進評価について<br>3 食育推進計画（第2次）で取り組むべき課題について   |                |
| 出席者   | 委 員   | 出席委員8人（欠席委員2人） |
|   | 事務局   | 8人             |
| 開催形態  | 公開（傍聴人なし）   |                |
| 担当課   | 保健所保健総務課  |                |
| <b>議事の内容</b>  |   |                |
| 1 会長、副会長の選任   |   |                |
| 2 奈良市食育推進計画（第1次）の評価について<br>奈良市食育推進計画（第1次）について、次の資料を基に、事務局から説明 |   |                |
| (1) 第2次食育推進計画【資料1】  |   |                |
| (2) 数値目標達成状況【資料2】   |   |                |
| (3) 食育に関する取組みと計画目標との関連【資料3】                                   |   |                |
| <b>〔質疑・意見の要旨〕</b>   |   |                |
| 委員  | ならコープでは、フードセーフティシステムの説明をしたり、産直産品の特徴などをクイズラリーで遊びながら学んでもらう取り組みなどを毎年行っている。   |                |
| 事務局   | 市の主催で、ならコープの場所を借りるなどして、食育推進委員の所属団体の協力のもと、平成23年度はお茶をテーマに、平成22年度は奈良の食材をテーマに協働イベントを行った。  |                |
| 委員  | 県の事業だが、生産者サイドでは奈良県エコファーマー承認農家として、低農薬・低化学肥料で作った農作物を提供するエコファーマー消費者交流会を開催している。実際に参加者が植えた作物を春と秋に収穫してもらった。また個人的には中学校のゲストティーチャーとして講演を行った。 |                |
| 委員  | 講演などの話だけでなく、実際に試食できるイベントを行うと非常に盛況となる。   |                |
| 事務局   | 市主催で食育イベントを行う際は近隣の小学校・幼稚園に案内を配付している。また、農業体験については、各保育園や学校ごとに独自に取り組んでいる。子育て世代への啓発、施策取り組みとしては、幼稚園・保育園の保護者に食育情報誌を配付している。                |                |
| 委員  | 奈良県農協では、食と農をテーマに小学生向けの農業体験「アグリスクール」を開催している。   |                |

|   |  |
|---|--|
| 委員  | <p>目標の達成状況について、達成項目と未達成項目があるものの、目標に近づいている項目も多く、総合的には悪くない結果といえる。目標値がもともと高いものについては、今後これ以上（90%以上など）目標を高くすることは難しいかもしれない。</p> <p>中学生の朝食摂取率が向上した要因、効果的だったと思われる取り組みは何か。</p>                             |
| 事務局   | <p>各学校で、食に関する指導の全体計画として、家庭科に限らず他の教科でも食育を推進しており、教育指導要領にも食育に関する項目が盛り込まれたと教育委員会から聞いている。全体的に学校での取り組みが進んだことが要因の一つと思われる。</p>   |
| <p>3 食育推進計画（第2次）で取り組むべき課題について</p>               |  |
| <p>食育推進計画（第2次）で取り組むべき課題について、資料4、5を基に事務局から説明</p> |  |
| <p>(1) 食育に関する意識調査結果の分析と取り組みの方向【資料4】</p>         |  |
| <p>(2) ライフステージに応じた食育推進【資料5】</p>                 |  |
| <p><b>〔質疑・意見の要旨〕</b></p>                        |  |
| 委員  | <p>資料5のライフステージに応じた食育推進について、総花的で一次計画と変わらない印象だ。二次計画は、今回の調査を踏まえた上で、一次からさらに発展したものにしなないと意味が無いのではないかと。一次計画の結果、できなかったところなどを重点化するのがよいと思う。</p>  |
| 事務局   | <p>国、県の第2次計画の考え方に則したことに加えて、第1次計画の推進時に実際に若者等の食育空白世代への施策が手薄だったと思われるため、ライフステージを通じた対策が今後必要と考えている。</p>  |
| 委員  | <p>「食育で人を育てる、そしてまちを育てる」そんな理念のイメージを持っている。</p>   |
| 委員  | <p>ライフステージのうち、アプローチしづらい世代の青年期は、食生活のバランスも乱れがちと思われるので、この世代への対策は必要だ。子どもの頃から農業や食に関する授業をしたり、体験させたりすることが大切。今の子どもたちは、食べ物がどうやってできるのか知らない。命をいただいているという感覚もない。本当は教育システムそのものから変えるのが望ましい。大学にも1単位くらいあるとよい。</p> |
| 委員  | <p>大学の先生の発案で始めた学生対象の和食マナー講座では、始めた頃は食に対する興味もない様子だったが、ある時、農家の方にお問い合わせし土のついたままの野菜を見せて話をしてもらったところ、非常に関心が高まった。喜んで野菜を持ち帰って家庭で調理する学生も出てきた。</p> <p>調理の仕事に携わっているが、料理を提供する時に黙って食材を出すのではなく、ちゃんと説明をしている。</p> |
| 委員  | <p>実際に見たり体験したりすることで、命をいただいているという感謝</p>   |

の気持ちが育まれる。特に、小さな子どもには体験がないと伝わらない。

委員 単なるイベントではなく、種から育てるような体験が必要だ。  
アグリスクールでは小学生を対象に年間計画に沿って、田植えや稲刈り、収穫した作物で味噌作り、豆腐作りなどをする体験を実施している。

委員 小学生がトマトを育て、収穫したものでジャム作りをするという取り組みをしたら、トマト嫌いの子でも食べるようになったという例があるそうだ。

委員 食物は自然の恵み。人間は食物を育てているだけで、一から作ることはできない、そういったことも伝えなければいけない。  
昔は「食育」という言葉が無くても、自然にやってきた（高齢世代）が、そうした営みは戦後次第に失われていった。次の世代（19～39歳代の世代）へと伝わっていない結果、「いただく」という感覚がなくなってしまった。現代では、あえて伝えるということを意識しなければならない。

日本人全体の食に対する感謝の気持ちは確かに薄れてきている。やはり農業体験などの取り組みが一番よいのではないかと思う。

委員 市内の食育に関する取り組みはまだまだたくさんあると思う。保健所長の話にあったように、「見せる」「見えるようにする」取り組みを今後は意識していくべきだ。

大学では今年の春から JA、農政局の協力のもと種まきからの作物づくり・農業体験をしている。行政へのリクエストとして、市内で行われている様々な取り組み実績の周知をもっとしていただければと思う。そこから情報が広がっていくのではないかと思う。

委員 食生活に必要な調理技術について、対策が必要である。調理方法の違いがわからない、魚は切り身しか見たことがない、お米が磨げないという子どもがいる。それが、青年期、子育て世代にも続いている。昔は親が教えたが今は親も知らない。

市の男女共同参画の取り組みと食生活改善推進員協議会が一緒に行っているものとして、父親と子どもの料理教室などもある。

企業の協力を得て社員食堂などの場でもできるとよいのではないか。もちかけてみれば賛意が得られるかもしれない。市内には対象となる企業はあるのか。

事務局 市内では、集団給食で3カ所把握している。

委員 学生は学校単位で取り組めるが、青年期に対してはアプローチの方法がないのが課題。

これまでの青年期へのアプローチはいかがか。男女共同参画の取り組みとしてやってこられたようだが。

- 事務局 この5年間では、当初はあまりなかったが、最近は父子クッキングなどの取り組みが増えている。
- 委員 今回の若い世代がよく活用するインターネットのサイトでは、写真で調理法がわかるので、そういった方法を取り入れていくことも必要かもしれない。
- 委員 晩婚化傾向に加え、花嫁修業もしないと世代間で伝わっていかないのではないか。
- 委員 こういった状況の中で、いきなり「伝統食」「伝統の味」といっても伝わらない。
- 委員 うれしかった経験をあげると、昨年12月のおん祭りの際、店の前が通行止めになるので椅子とテーブルを置き「のっぺい」をワンコイン（子どもは無料）でふるまったところ、子どももぺろりと食べていた。色々な世代が行きやすいので、そういった食の祭りのような取り組みが良いと思う。
- 委員 大学のイベントなどで伝統食などを出していただくのも良いかもしれない。
- 委員 「食」だけにこだわらず、行事とあわせて取り組むのが良いと思う。奈良には他にはないすばらしい行事がある。例えば東大寺や春日大社の色々な行事だ。ちなみに食文化にまつわる行事として、うちの店では小豆粥や七草の前夜に調理場の七つ道具で七草をたたき習わし（「唐土の国から日本の国に渡らぬうちに七草ナズナ」とうたいながら七草をたたき。疾病がやっこないように願う意味の習わしと考えられる）や、12月12日にお札を出入り口に逆に貼る（泥棒除けのおまじない）といった行事も続けている。情報発信の点からも、伝統行事との組み合わせや連携があれば効果が大きいと思う。
- 委員 広報はずっと課題だ。単にパンフレットなどを置くだけではだめで、熱意を持った人が話をするといったことが必要。しみんだよりも掲載があるが見落としやすい。市のホームページもみんなが見る訳ではない。食育イベントというキーワードがそもそも思い浮かばないかもしれない。
- 委員 市の食育に関するホームページはあるか。
- 事務局 あるが、認知度は低い。
- 委員 食事をするために不可欠な歯の健康は、認知症予防にも関連性があると思うので、計画のどこかに盛り込んでもらいたい。
- 事務局 食育月間の6月には虫歯予防デー（6月4日）もあるので、そういったコラボレーションも可能ではある。
- 委員 食事・栄養の取り方、安全面はさらに充実・継続をしていき、これまで手薄だった精神面については、農業との連携・協力を得ていくこと

が不可欠だと思う。

委員 食生活改善推進員の活動としては、7箇所の公民館で定例会（料理講習）を行っているほか、依頼に応じて活動している。例えば高血圧予防の食事など多岐にわたるテーマで、作って見せて食べてもらうという活動を行っている。最近はや若い世代の会員も増えてきている。

委員 保健所で実施している離乳食教室は、実際に調理もするのですか。  
事務局 現在は座学のみ。他には対象者全員に離乳食ガイドを送付している。  
委員 これらの現在の取り組みを十分活用してもらえるように、地道に周知し、「あそこですいつもやっている」とみんなに知ってもらえれば参加につながるはずだ。

委員 大学で取り組んでいる農業体験のサークル活動も、ぜひ情報発信をしていただきたい。

委員 サークル活動は、近畿農政局、大学のホームページに出ているが、見るのは高校生が多い。他には日本農協新聞、日本教育新聞にも掲載していただいた。奈良市民に向けていかに情報発信していくか、どんなメディアが良いのかといったことは確かに考えていかなければならないかもしれない。市内での様々な取り組みを、これも食育なのだととらえていくことが大切だ。

委員 興味のある若者にアプローチ、核となる人を育てるとよいかもしれない。フェイスブックやツイッターなどであつという間に情報も広がる可能性がある。